

『数学ガール／フェルマーの最終定理』正誤表

結城浩

© Hiroshi Yuki

<http://www.hyuki.com/girl/fermat.html>

2014年10月1日

目次

1	第1刷の誤り: p.103 上から6行目	2
2	第2刷の誤り: p.332 下から12行目	2
3	第2刷の誤り: p.332 下から10行目	2
4	第2刷の誤り: p.332 下から9行目	2
5	第2刷の誤り: p.231 上から7行目	2
6	第2刷の誤り: p.231 下から5行目	2
7	第3刷の誤り: p.281 下から5行目 ($\cos \theta$ のテイラー展開の最後の項)	2
8	第3刷の誤り: p.282 上から4行目	2
9	第3刷の誤り: p.246 上から14行目	3
10	第3刷の誤り: p.261 解答 8-3 の 7.	3
11	第3刷の誤り: p.308 下から11行目	3
12	第4刷の誤り: p.319 下から6行目	3
13	第5刷の誤り: p.306 上から8行目	3
14	第11刷: p.355: 索引の後に以下の補足解説を追加。	3
15	第12刷の誤り: p.300: n が 2 の冪乗である場合の補足	4
16	第15刷で修正: p.60: 索引の後に以下の補則解説を追加。	4

1 第1刷の誤り: p.103 上から6行目

誤: けれども

正: けれども

2 第2刷の誤り: p.332 下から12行目

誤: $(a, b, c) = (3, 4, 5)$

正: $(a, b, c) = (4, 3, 5)$

3 第2刷の誤り: p.332 下から10行目

誤: $(a, b, c) = (5, 12, 13)$

正: $(a, b, c) = (12, 5, 13)$

4 第2刷の誤り: p.332 下から9行目

誤: $(a, b, c) = (7, 24, 25)$

正: $(a, b, c) = (24, 7, 25)$

5 第2刷の誤り: p.231 上から7行目

誤: できた。

正: できた。(A, B, C)は原始ピタゴラス数だ。

6 第2刷の誤り: p.231 下から5行目

誤: したがって、

正: (A, B, C)は原始ピタゴラス数だから、AとBのどちらかは偶数。つまり $\frac{AB}{2}$ は自然数。したがって、

7 第3刷の誤り: p.281 下から5行目 ($\cos \theta$ のテイラー展開の最後の項)

誤: $\frac{\theta^8}{8!}$

正: $\frac{\theta^6}{6!}$

8 第3刷の誤り: p.282 上から4行目

誤: 0, 2, 4, 8,

正: 0, 2, 4, 6,

9 第3刷の誤り: p.246 上から14行目

誤: 平方になるか

正: 平方数になるか

10 第3刷の誤り: p.261 解答8-3の7.

誤: 解答8-2

正: 解答8-1

11 第3刷の誤り: p.308 下から11行目

誤: の点は

正: の解は

12 第4刷の誤り: p.319 下から6行目

誤: $+2q^{21}$

正: 削除

13 第5刷の誤り: p306 上から8行目

誤: 私たちはさっき、楕円曲線 $y^2 = x^3 - x$ のグラフを描いた。目で見てもわからないけれど、このグラフの点 (x, y) の x, y はいずれも有理数のつもりで描いた。つまり、私たちは有理数体 \mathbb{Q} の世界で楕円曲線を考えていた。

正: 私たちはさっき、楕円曲線 $y^2 = x^3 - x$ の姿をとらえるため、三次式 $x^3 - x$ を因数分解し、三次方程式 $x^3 - x = 0$ を解き、 $(0, 0), (1, 0), (-1, 0)$ という三個の有理点を得た。

14 第11刷: p.355: 索引の後に以下の補足解説を追加。

補足解説:

第8章で「僕」は素粒子よりも小さな粒子という意味でクォークという語を使っていますが、現在クォークは素粒子の一種です。また将来、クォークが内部構造を持つとわかればクォークを構成する粒子の方が新たに素粒子と呼ばれます。

15 第12刷の誤り: p.300: n が2の冪乗である場合の補足

し、 n は8, 16, 32, 64, ...にもなりません

すると——あれ？ p は素数か……あ、そだそだ。FLT(4)はすでに証明されていますから、 $n \equiv 4$ だと考えてかまいません。ということは、 n は $n = mp$ のように書けます。《自然数 m 》と《 n の素因数 $p \geq 3$ 》との積です。 $x^n + y^n = z^n$ を満たす n, x, y, z が存在するなら、 m, p は指数法則に

『数学ガール/フェルマーの最終定理』p.300

16 第15刷で修正: p.60: 索引の後に以下の補則解説を追加。

補足解説:

第2章 (p.60) でミルカさんは「《原始ピタゴラス数が無数にある》と《単位円周上に有理点が無数にある》は同値」と述べています。「《原始ピタゴラス数が無数にある》ならば《単位円周上に有理点が無数にある》」は自明ですが、逆の「《単位円周上に有理点が無数にある》ならば《原始ピタゴラス数が無数にある》」には、多少の議論が必要になります。